

100年企業を目指して 人の育成に力を入れたい



電子機器部品や磁性製品の精密加工を行う ニッチな領域で技術力を生かしたものづくり企業



小林テック 株式会社

由利本荘市内に4つの拠点を持つものづくり企業・小林テック株式会社。昭和48年、旧矢島町の誘致企業第一号として、親会社である「小林工業株式会社」の矢島工場が開設され、その後、矢島小林工業株式会社として独立。創業50周年を迎えた令和4年、現在の社名に変更した同社に、幅広いものづくりを行う上でのこだわりや強み、人材育成についてお話を伺った。

代表取締役社長 今野 智彦

〒015-0411
由利本荘市矢島町城内字沖小田429
TEL 0184-56-2637
<https://ktech.co.jp/>



HP



矢島の誘致企業第一号 TDKの協力会社として設立

現在の代表取締役社長である今野智彦さんの祖父にあたり、初代社長を務めた小林忠彦氏がTDK株式会社（以下、TDK）の創業者・斎藤憲三氏に師事していたことから、現在も同社の受注の7割はTDKによる依頼が占めている。薬師堂工場・川辺工場がいずれも電子部品製造の拠点だ。

「弊社は『農林業しかなかった矢島地域に新たな産業を起こし、雇用を創出したい』という思いから創業しています。これはTDK設立の経緯とも通ずる精神です。矢島の本社工場ではセラミックスやフェライト、マグネットなど磁性材料の精密加工を行っています。実はこの分野は全国的にもニッチであり競争がいない分野です」。

また、もともと社内で使用する治工具を製作する部門として立ち上げられた愛宕山工場も、平成に入った時分で、時代の流れに合わせ受託加工に切り替えた。主にステンレスやアルミなどの切削加工、各種治工具類の製造や研究開発、医療機器関連装置の設計・製造などを行っている。



愛宕山工場の様子。20～30代の社員も活躍中。

技術力を継承させ、残していく 多能工化を目指し、効率化も

「これまでコンピューターやファクシミリ、通信機器など時代のニーズに応じたものづくりを行ってきました。過去にはコンピューター用HDDヘッド



同社が製造する製品のサンプル。

も弊社が製造させて頂きました」。

産業・電子機械が著しく発達した昭和59年を皮切りに従業員数は増加。現在は4拠点で約300人の従業員が働いており、定年は60歳だが、多くは65歳まで延長し、勤務を続けている。

「従業員の技術力が会社の財産。ベテラン従業員の技術を継承し、ノウハウを残すことは重要です。若い従業員にはジョブローテーションでさまざまなポジションを経験させ、多能工化にも取り組んでいます」。

顧客だけでなく、従業員も 丁寧な関係構築を目指す

同社の今後について、大事にしたいことをお聞きした。

「人口減少により、人材も限られている。貴重な人材を活かすため、ただ色々な分野に手を伸ばすのではなく、お客様

を理解し、満足していただける製品を提供することを第一に仕事していきたいです。その一環として、勤務体系を8つに分け、受注内容に応じ、工程ごとに勤務体系を調整するなど工夫し、生産管理能力を高めています。工場や部署の異動もありますが、地域性なのか面倒見の良い従業員が多くて、アットホームな雰囲気が出社者の自慢です。チームワークの良さで、お互い支え合いながら対応してくれる従業員たちに、本当に感謝しています」。

「企業は人」だと今野さんは話す。

「経営は『決断・勇気・実行』を信条に、人を育てて会社、そして最終的には社会に貢献していきたい。社内で若手の研修会を開いたり、イベントを開催して社内のコミュニケーションを活発にしています。適材適所でそれぞれの特性を生かして働ける場所にしたいですね」と今後の意気込みを教えてくれた。



取引先から送られてきた図面を基に設計を行う部門。



検査部門では最新装置を使い、しっかり品質を管理。